

## ◆令和6年7月16日開催庁議◆

### 1. 市長挨拶

- 暑くなってきたので体調に留意してほしい。本日臨時議会が開催されるが、主な案件は土地開発基金の造成に関する条例案や盤尻のパークゴルフ場の開設に伴う運営費の補正予算である。これらの案件はこれまで議会で議論されたものなのでよろしくお願ひしたい。
- 先週、道新の記事で日本ハムの2軍施設が道内に建設されるのではないかとという報道があり、恵庭や江別、千歳、苫小牧、札幌を候補地としている記事があった。市には公式に具体的なものはないが、これに対応することが具体的に起きればしっかり対応していきたいと考えている。道新から私にも連絡が入り、記事に関する取材を受けたが「何ともありません」と答えている。また、記事には施設を公設民営との内容であったことから、行政が単独で建設することになれば様々な課題が出てくることを述べた。恵庭はいろんなところから注目される場所になっているので、しっかりと私どものスタンスをブレることなく対応していきたいと考えている。
- これから夏休みに入っていくが、それぞれ事故や違反等がないよう十分所属職員に注意喚起をお願いしたい。最近は特に水の事故が多いようなので注意するようにしてほしい。

### 2. 議事

#### (1) 計画的な年次有給休暇・夏季休暇の取得について【総務部】

##### ◎資料に基づき、総務部長説明

- 各所属においては計画的に年次有給休暇及び夏季休暇を取得できるよう業務調整をお願いしたい。また、会計年度任用職員についても夏季休暇の取得が可能であり、各所管においては改めて周知及び計画的な取得の促しをお願いしたい。

#### (2) 令和6年上半期の年次有給休暇の取得状況について【総務部】

##### ◎資料に基づき、総務部長説明

- 令和6年上半期（1～6月）の年次有給休暇の取得状況は、令和5年上半期に比べ増加した。
- 恵庭市特定事業主行動計画で掲げている年次有給休暇の目標12日を上回る取得日数を今年も達成できるよう、各所属においては休暇取得の促進をお願いするとともに、取得日数が3日以下の職員は、所属部長に連絡を行うので指導願う。

#### (3) 職員の服務規律の確保について【総務部】

##### ◎資料に基づき、総務部長説明

- 職員の服務規律については、次の事項に改めて留意いただきたい。各所属において定期的に注意喚起を行い、継続的な取組をお願いするとともに、会計年度任用職員

にも同様に周知願う。

- ・身分証明書の常時携行と勤務中における名札の着用の徹底
- ・窓口や電話での親切・丁寧な対応、電話を受ける際には必ず所属部署及び氏名を伝え、市民サービスの向上に努めること
- ・手続き窓口への案内間違いが無いよう、内容・窓口を確認し案内すること
- ・利害関係のある者からの贈答品は決して受け取らないこと
- ・事件や事故を起こさないよう留意すること

#### (4) 自治体DX推進に関する講演会の開催について【総務部】

##### ◎資料に基づき、総務部情報政策室長説明

- 自治体DXの推進に関する講演会を下記のとおり開催する。DXの推進について民間企業の視点で社会問題に対する考えや価値観を伺える貴重な機会であり、当日は庁内動画配信システムで視聴が可能であるため、職員においては積極的な視聴を願う。
- 今回講演会の講師を務めるパナソニックIT S(株)代表取締役の田辺氏が、コーディネーターとして参加する次世代リーダー育成塾を8月19日～21日に室蘭市で開催する。関心のある方は情報政策課まで報告願う。

【開催日時】 8月8日（木） 13時30分～1時間程度

【開催場所】 市民会館中会議室

(市長)

市長会で講演内容を聞いたが、大変面白かったので情報政策室へ講演の手配を頼んだ。行政との自治体DX化について様々な実績があり、バス運行など参考になると思われる。今回の講演会の話聞いて具体的にDX推進計画に反映させることに繋げてほしい。

#### (5) 基金枠の効果検証と令和7年度以降の取組について【総務部】

##### ◎資料に基づき、財務室財政課長説明

- 令和6年度予算では、「まちづくり推進基金」を原資として、特色のある事業の機動的かつ柔軟な実施を目的に、生活環境部、建設部、消防本部に限定した基金配分特別枠「基金枠」を創設したが、令和6年度に限定した試行的取組であったことから、その効果について評価・検証をするとともに、令和7年度以降の実施可否を検討した。
- 令和6年度は、生活環境部、建設部、消防本部の3部に対し合計84,000千円を配分し、表の事業へ充当した総額は32,800千円であった。  
基金枠の導入による効果と課題は下記のとおり。

- ・事業実施の判断に係る所管課とのギャップが解消された。
- ・市民ニーズの高い事業、懸案事業の実施が実現できた。

- ・基金が財政マネジメントツールとして有効に機能した。
  - ・財源の硬直化の緩和に繋がった。
  - ・政策要求後に基金枠事業を選定した結果、原部の裁量性や独自性に欠けた。
  - ・継続事業への充当があり、基金枠廃止の際の財源措置が課題。
- 令和7年度以降の基金枠の考え方として、代替財源としての基金には硬直化を緩和する役割があることから、財源不足を市民サービスの削減で補うのではなく、基金のストック機能を有効活用することで新たな財政需要への対応が可能である。この結果、基金枠を財源硬直化による財源不足を補う方策として「継続」することが、財政運営上有効な取組であると結論付けた。
- 基金枠継続の目的として、基金のストック機能を有効に活用することで財源硬直化を緩和し、予算要求段階における部の裁量性の不均衡を調整する。
- 新たな基金枠は政策予算要求前に予め配分することを前提とする。
- 令和7年度以降の基金枠の対象部は今年度と同様の3部。
- 令和7年度の基金配分額は、ふるさと納税制度の利用により流出する市税控除額を目安とし、直近3か年の市税控除額の平均額から、総額を90,000千円程度と設定した。対象部への配分は、同様に直近3か年の充当額の割合をベースに設定している。
- 基金枠は政策的事業への充当を基本とする。

## (6) 令和6年度カーボン・マネジメントシステムの目標・計画案の作成について

### 【総務部】

#### ◎資料に基づき、総務部長説明

- カーボン・マネジメントシステムにおけるエネルギー使用量の削減について、各所管においては引き続き削減目標に近づくよう、本年度の目標を各部局別に設定して報告を願う。

【報告期日】 7月26日（金）

## (7) 赤い羽根共同募金寄付金付ピンバッジについて【保健福祉部】

#### ◎資料に基づき、保健福祉部長説明

- 本年も赤い羽根共同募金運動の開始に合わせ、恵庭市共同募金委員会で、ピンバッジを作成した。本年度はえこりん村のひつじをモチーフとした「ふわふわひつじ」のデザインで価格は1個500円で販売する。申込は各課で取りまとめのうえ、福祉課まで提出願う。

【申込期限】 7月31日（水）